

単語の類別について理解する 問題②正答率 29.0%

(問題①の正答率は 60.7%)

- 4 3 2 1
 形容動詞 形容詞 動詞 名詞

	解答類型	割合 (%)
○	1 名詞	29.0
×	4 形容動詞	39.4
×	3 形容詞	24.1
×	2 動詞	6.4
—	無解答	1.0

私は伝えたい内容が明確になるように、次の文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引き付けたことがわかります。これは「青い」という①を、「青さ」という②に変えて、主語にしているためです。

ア 大きな青い器が私の目を引き付けた。

イ ← 大きな器の青さが私の目を引き付けた。

四 次の文章の①と②に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの1から4までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

「青さ」を名詞と答えた生徒は 29.0%であり、「青さ」という単語のもつ文法的な役割や品詞の名称を理解できていないことが課題として考えられる。
 名詞は主語となるなど、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかを理解できていない実態がある。

内容の系統

第1学年

伝国(1)イ(エ)

①単語の類別について理解し、②指示語や③接続詞及び④これらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

第2学年

伝国(1)イ(エ)

単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。

- ①単語がその性質から自立語と付属語とに大別されること、更に幾つかの品詞に分類されること
- ②物事を指し示す働きをもつ語で、いわゆる「こ・そ・あ・ど言葉」
- ③前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ語で、いわゆる「つなぎ言葉」
- ④一部の副詞（「まして」など）や名詞（「一方」、「他方」など）、連語（「そのため」など）など

「中学校学習指導要領解説国語編」

提案 単語を正しく類別するには、文法的な知識として学習させるだけでなく、具体的な言語活動の中で考えさせるような学習を仕組みましょう。

単なる文法的な知識として暗記するような学習だけではなかなか定着はしません。例えば、具体的な言語活動の中で、伝えたい内容を明確にするためにはどのような語順にすればよいかなどについて検討するとともに、それぞれの単語の働きについて考えさせるような学習を仕組みましょう。また、単語の働きについて考えることが目的や意図に応じた文章を書くことにつながることを意識させることも大切です。「平成 27 年度全国学力・学習状況調査授業アイデア例」にある「写真にキャプションを付けよう」という事例を参考にすることも考えられます。